

民事意思能力鑑定サービス：遺言作成版

遺言を執行する時点で、遺言を作成時に遺言者に十分な意思能力があったか否かが問題となって争われる訴訟は少なくありません。意見を求められた専門医は、遡及的な証拠を間接的に見るだけで判断することになります。そこで、当院の「民事意思能力鑑定サービス」で、遺言書を作成した時点で意思能力の有無と程度を専門的診察と検査を行って報告書を作るものです。遺言執行時の争いを未然に予防する、大変有効な手段といえるでしょう。

サービス内容

認知機能：予備調査として長谷川式認知機能テストを用いて評価します。実施は申し込み者の代理人の法律専門家（弁護士など）もしくは当院担当者が実施します（オンライン実施も可）。得点が低い場合は本調査に進まない場合もあります。

生活史と遺言作成まで経緯：精神医学的視点からご本人の価値観やご希望を確認します。約 30 分。

民事意思能力評価：遺言作成判断能力評価用構造化面接：臨床家用（Structured Interview for Competency and Incompetency Assessment Testing and Ranking Inventory: Testamentary Capacity-Clinicians (SICIATRI:TC-C)）を用いて民事意思能力を評価します。約 30 分。

精神疾患の有無と内容：意思能力に影響する可能性のある重大な精神疾患について Structured Clinical Interview for DSM-IV (SCID) という精神科診断用構造化面接を用いて客観的かつ確度の高い診断を行います。約 45 分。

詳細な報告書：精神医学的に詳細な報告書を作ります。診察場面を動画撮影し情報として残します。後日起り得る紛争の際の証拠としてご利用いただけます。

担当医

民事意思能力鑑定サービスを統括する 北村俊則 は日本で最初の英国精神医学会認定の専門医資格を有し、長年、「法と精神医学」の領域で民法に特化した研究を行ってきております。自ら開発した「治療同意判断能力評価用構造化面接」は同種類の国外の評価法の中でも高い評価を得ております。



慶応義塾大学医学部卒業慶応義塾大学病院（精神神経科），東京武蔵野病院，英国バーミンガム市オールセインツ病院，国立精神・神経センター精神保健研究所を経て，熊本大学大学院生命科学研究部教授（臨床行動科学分野・こころの診療科）教授 ワシントン大学医学部（米国セント・ルイス）客員教授，いくつかの国際専門誌の編集委員 英国精神医学会会員（日本人初）およびフェロウ《現職》北村メンタルヘルス研究所所長，こころの診療科きたむら醫院院長，北村メンタルヘルス学術振興財団代表理事
h 指標 50 (ResearchGate 4 November 2024) 被引用回数 10,765 (ResearchGate 4 November 2024)

料金表

	所要時間	料金（円＋消費税）
民事意思能力評価および 生活史と価値観	30分＋30分	300,000
精神疾患の既往とその内容	45分	300,000

参考資料：最高裁の判示では

土地建物共有持分権確認請求事件：平成 23 年 2 月 22 日最高裁判所第三小法廷民集 65 卷 2 号 699(35)

被相続人の遺産の承継に関する遺言をする者は、一般に、各推定相続人との関係においては、その者と各推定相続人との身分関係及び生活関係、各推定相続人の現在及び将来の生活状況及び資産その他の経済力、特定の不動産その他の遺産についての特定の推定相続人の関わりあいの有無、程度等諸般の事情を考慮して遺言をするものである。

遺言作成判断能力評価用構造化面接：臨床家用

遺言を作成するに十分な能力があるかは民事上の意思能力に相当します。意思能力のない者（意思無能力者）の法律行為は無効とされます。ここに含まれる法理行為には、遺言作成、売買行為、医療サービスをうけることなどが含まれます。これは問題となる行為ごとに行行為者の年齢、状態、行為の状況など実質的な観点からその有無を立証することが必要です。

遺言を作成できるかどうかの判断において認知症の有無や認知機能の良否は重要です。しかし、認知機能の水準で遺言作成能力が直接決まるものではありません。まして、脳画像診断で決まるわけではありません。さらに他の重症の精神疾患があって、遺言作成能力が減弱することもあります。

最高裁の判決では、遺言作成能力を認めるには、（１）自身と推定（法定）相続人との身分関係や生活関係、（２）推定（法定）相続人の現在及び将来の生活状況と（資産を含む）経済力、（３）死後に残す財産について、推定（法定）相続人がどのように関与してきたのかなど、を理解して、それを勘案できることが必要とされています。つまり、通常の認知機能テストで評価される見当識（今日はいつか、ここはどこか等）、計算力（引き算）、短期記憶力（見たものを覚えている）といった心理能力とは異なる領域の能力が問われているのです。

こころの診療科きたむら醫院の民事意思能力鑑定サービスの著者である北村俊則はこれまでに、医療サービスにおける治療同意判断能力の研究と評価用構造化面接の作成において世界的評価を得ています（別紙資料）。薬物療法や外科治療に同意・不同意する判断能力もまた、単純な認知機能では評価できず、同意権限を理解し、治療を受けた場合と受けなかった場合の利益・不利益を理解し、他の方法とも比較考慮できることが評価されます。遺言作成判断能力評価用構造化面接：臨床家用（Structured Interview for Competency and Incompetency Assessment Testing and Ranking Inventory: Testamentary Capacity-Clinicians

(SICIATRI:TC-C) はこれまで開発した治療同意判断能力評価用構造化面接 (SICIATRI-R) から発展して作成されています。その構造は上記最高裁判決における遺言作成能力にほぼ一致するものです。

また、高齢者において意思能力に悪影響を与える可能性のある精神疾患（妄想性障害、うつ病、躁病、各種の不安障害など）については、世界的に使用されている Structured Interview for DSM-IV (SCID) を使用し、信頼性・妥当性の高い診断を行います。

こころの診療科きたむら醫院の「民事意思能力鑑定サービス：遺言作成版」は、通常の医学意見書ではカバーしていない、民事意思能力を詳細に評価し、遺言者が遺言作成時点で十分な意思能力を有していたことを示す根拠となります。

SICIATRI-R 医療における治療同意	SICIATRI: TC-C 遺言の作成
同意権限の理解	遺言作成権限の理解
同意不同意の選択の明示	遺言作成意思とその内容の明示
判断の他者への委譲がない	強制・被影響性がない
期待できる利益に関する理解	遺言の内容に関する理解 遺言の特徴：目的、財産の範囲と内容、価格、債権と債務、被相続人
(手続きに関する理解)	遺言の手続きに関する理解 自筆、日付、執行者、公正証書
予測できる危険に関する理解	作成した場合に予測できる不fast事象の理解 死後の親族への影響
代替手段に関する理解	法定相続との比較
無治療から予測できる危険に関する理解	作成しなかった場合に予測できる不fast事象の理解
無治療の場合に期待できる利益に関する理解	作成しなかった場合に期待できる利益の理解
回復願望	該当せず
該当せず	書き直し
病的決定要因の欠如	病的決定要因の欠如
病識・洞察	該当せず

民事意思能力評価についてのこれまでの研究業績

- 北村俊則, 北村總子 (1993). 精神医療における告知同意と判断能力について. *精神神経学雑誌*, 95, 343-349.
- 北村俊則, 北村總子 (1994). 精神科医療における治療同意の判断能力評価手法について. *精神科診断学*, 5, 233-242.
- 北村總子, 北村俊則 (1995). 精神科医療におけるインフォームド・コンセントと判断能力. *こころの科学*, 60, 8-13.
- 北村總子, 北村俊則 (訳) (1997). アメリカ合衆国の「精神疾患患者の保護と擁護法」. *精神保健研究*, 43, 75-86.
- 北村總子, 北村俊則 (1997). 患者の自己決定能力に関して医療の専門家と非専門家の持つ意識の差異に関する研究. (財) 明治生命厚生事業団第2回健康文化研究助成論文集. pp 84-91.
- Tomoda, A., Yasumiya, R., Sumiyama, T., Tsukada, K., Hayakawa, T., Matsubara, K., Kitamura, F., & Kitamura, T. (1997). Validity and reliability of structured interview for competency incompetency assessment testing and ranking inventory. *Journal of Clinical Psychology*, 53, 443-450.
- Kitamura, F., Tomoda, A., Tsukada, K., Tanaka, M., Kawakami, I., Mishima, S., & Kitamura, T. (1998). Method for assessment of competency to consent in the mentally ill: Rationale, development, and comparison with the medically ill. *International Journal of Law and Psychiatry*, 21, 223-244.
- 北村總子, 北村俊則 (1998). 精神疾患を有する者のための権利擁護者(advocate)制度—その歴史と役割—. *精神保健研究*, 44, 45-60.
- Kitamura, T., Kitamura, F., Mitsuhashi, T., Ito, A., Okazaki, Y., Okuda, N., & Kato, H. (1999). Image of psychiatric patients' competency to give informed consent to treatment in Japan: I. A factor analytic study. *International Journal of Law and Psychiatry*, 22, 45-54.
- Kitamura, T., Kitamura, F., Mitsuhashi, T., Ito, A., Okazaki, Y., Okuda, N., & Kato, H. (1999). Image of psychiatric patients' competency to give informed consent to treatment in Japan: II. A case vignette study of competency judgement. *International Journal of Law and Psychiatry*, 22, 133-142.
- 北村俊則, 林美紀, 北村總子, 加藤久雄, Hagen, D., Hay, D., Goldner, J. (1999). 医療における患者の判断能力の概念の国民各層における差異に関する国際比較研究. 第5回ヘルスリサーチフォーラム講演録「新しい時代の保健・医療を考える—グローバルスタンダードの視点から—」, pp 32-35.
- Kitamura, T., & Kitamura, F. (2000). Reliability of clinical judgement of patients' competency to give informed consent: A case vignette study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 54, 245-247.
- 北村總子, 北村俊則 (2000). 精神医学・医療における倫理とインフォームド・コンセントの歴史: 概観, 中根人允文, 松下正明 (編) 臨床精神医学講座, 第12巻精神医学・医療における倫理とインフォームド・コンセント, pp. 3-15, 中山書店, 2000.
- Kitamura, T. (2000). Assessment of psychiatric patients' competency to give informed consent: Legal safeguard of civil right to autonomous decision-making. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 54, 515-522.
- 北村總子, 北村俊則 (2000). 精神科医療における患者の自己決定権と治療同意判断能力. 学芸社.
- Grisso, T. and Appelbaum, P. S.: Assessing Competency to Consent Treatment: A Guide for Physicians and Other Health Professionals. 北村總子, 北村俊則 (訳) (2000). 治療に同意する能力を測定する: 医療・看護・介護・

- 福祉のためのガイドライン. 日本評論社, 東京.
- 城野匡, 高森薫生, 北村俊則 (2002). 精神保健福祉法における任意入院と患者の判断・同意能力. *臨床精神医学*, 31, 1471-1476.
- Kitamura, T., & Kitamura, F. (2005). Competency Testing in Medical and Psychiatric Practice: Legal and Psychological Concepts and Dilemmas. in (Takahashi, T. ed.) *Taking Life and Death Seriously - Bioethics from Japan*. Amsterdam: Elsevier.
- Kitamura, T. (2005). Stress-reductive effects of information disclosure to medical and psychiatric patients. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 59, 627-633.
- 北村總子, 北村俊則, 塚田和美, 加藤元一郎 (2006). 日本の精神医療における情報開示: 実態と規定要因. *先端倫理研究*. 1, 39-62.
- 北村總子, 北村俊則 (2007). 日本の精神科医療の回顧と展望—精神疾患を有する者の医療における自己決定—. 高橋隆雄, 浅井篤 (編) *日本の生命倫理: 回顧と展望*. pp. 131-159. 九州大学出版会.
- 北村俊則, 北村總子 (2008). 医療における自己決定論の盲点—精神科医療のなかで—. 高橋隆雄, 八幡英幸 (編) *自己決定論のゆくえ: 哲学・法学・医学の現場から*. pp. 108-122, 九州大学出版会.
- 北村俊則, 松長麻美 (2015). 成年後見制度において医療が必要な者の意思能力の概念とその評価. *成年後見*, 54, 15-22.

SICIATRI-R を引用している海外の研究

- Osborn, D. P. J. (1999). Research and ethics: Leaving excursion behind. *Current Opinion in Psychiatry*, 12, 601-604.
- Eastman, N., & Dhat, R. (2000). The role and assessment of mental incapacity: A review. *Current Opinion in Psychiatry*, 13, 557-561.
- Grimes, A. L., McCullough, L. B., Kunik, M. E., Molinari, V., & Workman, R. H. Jr. (2000). Informed consent and neuroanatomic correlates of intentionality and voluntariness among psychiatric patients. *Psychiatric Services*, 51, 1561-1567.
- Someya, T., Takahashi, M., & Takahashi, M. (2001). Is DSM widely accepted by Japanese clinicians? *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 55, 437-450.
- Sacks, E. R., Dunn, L. B., Marshall, B. J., Nayak, G. V., Golshan, S., & Jeste, D. V. (2002). The California scale of appreciation: A new instrument to measure the appreciation component of capacity to consent to research. *American Journal of Geriatric Psychiatry*, 10, 166-174.
- Bauer, A., & Vollman, J. (2002). Informed consent and patient competence in the psychiatrically ill: A review of empirical studies. *Nervenarzt*, 73, 1031-1038. (in German)
- Saks, E. R., Dunn, L. B., Marshall, B. J., Nayak, G. V., Golshan, S., & Jeste, D. V. (2002). The California scale of appreciation: A new instrument to measure the appreciation competent of capacity to consent to research. *American Journal of Geriatric Psychiatry*, 10, 166-174.
- Vollman, J., Bauer, A., Damschker-Hopfe, H., & Helmchen, H. (2003). Competence of mentally ill patients: A comparative empirical study. *Psychological Medicine*, 33, 1463-1471.
- Radden, J. (2003). Forced medication, patients' rights and values conflicts. *Psychiatry, Psychology and Law*, 10, 1-11.

- Vollmann, J., Bauer, A., Danker-Hopfe, H., Helmchen, H. (2003). Competence of mentally ill patients: A comparative empirical study. *Psychological Medicine*, 33, 1463-1471.
- Vellinga, A. Smit, J. H., Van Leeuwen, E., Van Tilburg, W., & Jonker, C. (2004). Instruments to assess decision-making capacity: An overview. *International Psychogeriatrics*, 16, 397-419.
- Vellinga, A. Smit, J. H., Van Leeuwen, E., Van Tilburg, W., & Jonker, C. (2004). Competence to consent to treatment of geriatric patients: Judgement of physicians, family members and the vignette method. *International Geriatric Psychiatry*, 19, 645-654.
- Marco, C. A., Vaughan, J. (2005). Emergency management of agitation in schizophrenia. *American Journal of Emergency Medicine*, 23, 767-776.
- Vellinga, A., Smit, J. H., Van Leeuwen, E., Van Tilburg, W., & Jonker, C. (2005). Decision-making capacity of elderly patients assessed through the vignette method: Imagination or reality? *Aging and Mental Health*, 9, 40-48.
- Dabrowski, S., Brodniak, W. A., & Welbel, S. (2005). Evaluation of keeping in accordance with the rules and regulations on the consent for treatment in a psychiatric hospital. *Psychiatria Polska*, 39, 139-150. (in Polish)
- Welie, S. P. K., Dute, J., Nys, H., & Van Wijmen, F. C. B. (2005). Patient incompetence and substitute decision-making: An analysis of the role of the health care professional in Dutch law. *Health Policy*, 73, 21-40.
- Sturman, E. D. (2005). The capacity to consent to treatment and research: A review of standardized assessment tools. *Clinical Psychology Review*, 25, 954-974.
- Hotopf, M. (2005). The assessment of mental capacity. *Clinical Medicine*, 5, 580-584.
- Cairns, R., Maddock, C., Buchanan, A., David, A. S., Hayward, P., Richardson, G., Szumukler, G., & Hotopf, M. (2005). Reliability of mental capacity assessments in psychiatric in-patients. *British Journal of Psychiatry*, 187, 372-378.
- Dunn, L. B., Nowrangi, M. A., Palmer, B. W., Jeste, D. V., & Saks, E. R. (2006). Assessing decisional capacity for clinical research or treatment: A review of instruments. *American Journal of Psychiatry*, 163, 1323-1334.
- Okai, D., Owen, G., McGuire, H., Singh, S., Churchill, R., & Hotopf, M. (2007). Mental capacity in psychiatric patients: Systematic review. *British Journal of Psychiatry*, 191, 291-297.
- Palmer, B. W. (2007). Assessment of decisional capacity. *Psychiatric Times*, 24, 38-39.
- Larkin, M., Clifton, E., & de Visser, R. (2009). Making sense of 'consent' in a constrained environment. *International Journal of Law and Psychiatry*, 32, 176-183.
- Porteri, C., Adreata, C., Anglani, L., Pucci, E., & Frisoni, G. B. (2009). Understanding information on clinical trials by persons with Alzheimer's dementia: A pilot study. *Aging: Clinical and Experimental Research*, 21, 158-166.
- O'Brien, A. J. (2010). Capacity, consent, and mental health legislation: Time for a new standard? *Contemporary Nursing*, 34, 237-247.
- Finucane, M. L., & Gullion, C. M. (2010). Developing a tool for measuring the decision-making competence of older adults. *Psychology and Aging*, 25, 271-288.
- Seo, M. K., Kim, S. H., & Rhee, M. (2011). Developing a tool to assess competency to consent to

- psychiatric hospitalization (KATOC): Reliability and validity. *Psychiatric Investigation*, 8, 39-48.
- Sessums, L. L., Zembrzuska, H., & Jackson, J. L. (2011). *Journal of the American Medical Association*, 306, 420-427.
- Galloghly, D. P., & Dear, G. E. (2020). Factors underlying clinicians' judgements of patient insight and confidence in using clinical judgement in psycho-legal settings. *Psychiatry, Psychology, and Law*, 27, 95-109.
- Hamilton, R. K. B., Phelan, C. H., Chin, N. A., Wyman, M. F., Lambrou, N., Cobb, N., Wilson, L., Kind, A. J. H., Blazel, H., Asthana, S., & Gleason, C. E. (2020). The U-ARE protocol: A pragmatic approach to decisional capacity assessment for clinical research. *Journal of Alzheimer's Disease*. (to be published).
- Varley, A. L., Goodin, B. R., Copes, H., Kertesz, S. G., Fontaine, K., Cherrington, A. L., & Hendricks, P. S. (2020). Development and validation of the Capacity to Treat Chronic Pain and Opioid Use Disorder (CAP-POD) questionnaire. *Implementation Research and Practice*, 1, 1-10.
- Lapid, M. I., Clarke, B. L., Ho, J. B., Ouellette, Y., Ambrust, T. L., & Wright, R. S. (2021). Research involving participants with impaired consent capacity: An examination of methods to determine capacity to consent. *Mayo Clinic Proceedings* 96(11), 2806-2822.
- Curley, A., Watson, C., & Kelly, B. D. (2021). Capacity to consent to treatment in psychiatry inpatients: A systematic review. *International Journal of Psychiatry in Clinical Practice*, 26(3), 303-315.
- Di Fazio, N., Morena, D., Piras, F., Piras, F., Banaj, N., Delogu, G., Damato, F., Frati, P., Fineschi, V., Ferracuti, S., Sani, G., & Dacquino, C. (2024). Reliability of clinical judgement for evaluation of informed consent in mental health settings and the validation of the Evaluation of Informed Consent to Treatment (EICT) scale. *Frontiers in Psychology*, 15, 1309909.